

昭和 38 年度 県畜産課関係当初予算のあらまし

昭和 38 年度の岡山県予算は、今年は県知事および議会議員の改選の関係で、政策的なものは 7 月の県議会に譲り、当初予算は骨格予算ということになっています。したがって畜産の重点施策等についても具体的には明らかにされていないわけですが、一応当初予算の概要と、新年度の畜産施策の方針、あるいは考え方といったものについて紹介を試みたいと思います。

畜産の当初予算の編成は、前記のとおり、新規事業はすべて後に譲り、昨年度から継続事業として引継いで実施が考えられるものも、全予算額の 40% 計上を原則として作業がおこなわれたため、畜産奨励・草地造成改良・酪農振興・家畜保健衛生などの関係事業のうち、主要な継続事業費のみが頭をそろえている程度になっています。

項目別の予算額は別表のとおりですが、このうち奨励事業等の内訳として取上げられている主な事項名はつぎのようです。

▽畜産奨励事業 (34 百万円)

畜産技術振興費、家畜流通改善費、肉畜振興対策費、寒冷地畜産振興費、和牛振興費、養豚振興費

▽草地造成改良事業 (98 百万円)

中規模草地造成事業費、草地利用施設整備事業費、大規模草地改良事業費、飼料作物増産利用促進費、草地改良機械導入費

▽酪農振興事業 (23 百万円)

世銀借款ジャージー牛導入費、生乳共販施設設置事業費、乳牛改良増殖事業費、学校給食用牛乳供給事業費

▽家畜保健衛生関係事業 (29 百万円)

家畜伝染病予防費、家畜衛生対策事業費、栄養繁殖障害防除費、放牧衛生対策費

畜産施策の方向

県ではさきに家畜増殖目標 50 万頭の畜産振興計画を立て、畜産振興を進めてきましたが、最近の経済

情勢や農業情勢の動きとともに、この計画を改訂する必要が生じてきました。

県畜産振興計画を改める

農林省でさき頃発表された、畜産物の需要と生産の長期見通し、あるいは家畜の改良増殖目標なども考慮に入れると、県自体の計画も一応再検討しなければならないという事態になったため、県畜産課ではいま、畜産振興計画改訂の作業を進めています。そしてこの計画は間もなくでき上がるので、38 年度予算はこの計画に盛り込まれた施策を中心に 7 月の予算を組んでいくことになっています。

しかし従来から畜産課で実施していた事業の大半は、前年から継承されるものであることから、当初の骨格予算中にもかなり組込まれています。例えば牧野改良では、本年度も 450 ヘクタールが計画され、7 割補助が行なわれることになっており、そのほか、肉用素畜導入事業寒冷地雌牛の導入事業、牛衝機の設置、クーラーステーション設置の補助事業等があげられます。

今後の方向

また本年度の畜産関係事業の実施にあたっての基本的な方向として、県畜産課で考えられているポイントを 1～2 あげるとつぎのとおりです。

農業構造改善事業については特に畜産主産地形成を主眼に諸施策を進めることとする。それにはまず個々の農家の経営を強化して行くことが必要で、多頭化と畜産収入の増大による個人の経営安定を中心に考える。さらに協業組織の強化、共同購入、共同販売の推進等とともに経営に直結した流通機構を整備して岡山県の地図の上に主産地的な考え方をはっきり打出す施策を進める。

畜産物の需要見とおしをもとに畜産振興を図るが、畜産物価格問題・貿易の自由化問題等と考えると、経営合理化とともに飼料の確保が重要な課題となってくるので、県としても自給飼料問題には特に力を入れ、草で飼える家畜を伸ばして行きたい。(編集係)

梅雨期の鶏の飼料

梅雨時期には鶏は食欲が悪くなり勝ちで一夜に多くの飼料を給餌器に入れると、食べ残しの飼料がカビたり腐敗することがあります。手数はかかっても飼料は少量ずつ回数を多く与えるようにし、1日1回は手で給餌器の中の飼料を混ぜて給餌器の底に古い飼料が残らないようにして飼料の喰べ込みを多くするように工夫しましょう。